

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2775003078		
法人名	社会福祉法人 川福会		
事業所名	グループホーム布市真寿庵		
所在地	東大阪市布市町2-12-2		
自己評価作成日	平成 24年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成 24年 9月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775003078&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaikokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775003078&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 8月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東大阪市内に、当法人が運営する介護老人福祉施設や介護老人保健施設、及び協力医療機関があり、協力のもと運営を行っている。また、地域の自治会にも加入し、交流等地域に密着したサービス提供を行っている。施設独自の目標として、「寄り添い共に生きる」を掲げ、利用者様・ご家族様・職員が共に支え合いながら生活し続けられるよう支援しています。集団生活の中にも、個々の要望に対応すべく、ご家族様や地域と連携をとり、実現に向け取り組んでいます。そうすることにより、より在宅に近い生活を支援できると思われま。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療法人が、社会福祉法人を設立して運営するグループホームで、特養を併設しています。ホームと地元自治会との交流は盛んで、利用者が地域の様々な行事に参加するだけでなく、地域住民によるボランティアグループの熱心なサポートを受けています。家族の訪問する機会が多く、ホームも家族との交流を深める機会を多く作る努力をしており、家族とは良好な関係を築いています。積極的でアイデアのある職員は楽しみや外出面で多くの行事を行い、利用者は活き活きとした表情をして、会話と笑顔のある生活をしています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の一員として、そこに住む住民と共に暮らすことを目指す・その人らしく生きることのできる、施設づくりを目指す・地域で助け合い、共に生きる施設づくりを目指す」の3つの理念と、「寄り添い共に生きる」を目標に地域生活を育めるよう実践しております。	「地域の一員として、そこに住む住民と共に暮らすことを目指す・その人らしく生きることのできる、施設づくりを目指す・地域で助け合い、共に生きる施設づくりを目指す」を理念と定め、「寄り添い共に生きる」を目標とし、明示しています。定例のグループホーム会議や毎日の業務を通じて職員と方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の方と共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町名を冠した施設名を付け、自治会に加入、地元のお祭りに参加し、みこしやだんじりの休憩場として、施設内駐車場を開放しています。又、地域の婦人部や、近隣の高校生・保育所との交流を図り、地域の一員としての生活を支援しています。	ホームは自治会に加入し、地域が主催する様々な行事に参加し、自治会の旅行にも利用者と職員が参加しています。また利用者は熱心な地元の馴染みの女性グループから衣類の繕いやコーラス、絵手紙、夏祭りの食べ物づくり、外出付き添いなどのボランティア奉仕を受け楽しんでます。また、地域の保育園児や中学生の体験学習を受け入れ、交流を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会議において、地域の役員・家族様の代表を交えて、認知症ケアの在り方等の意見交換を積極的に行う。又、地域包括支援センター職員の参加による、研修予定の紹介や参加を呼びかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、必ず運営推進委員会議を行い、施設行事の実施報告や今後の予定を報告、それに対するご家族様の要望を抽出している。また、公民館職員様や民生委員様より、参加可能な地域の行事を確認し予定に入れている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、民生委員、公民館職員、地域ボランティア、家族の参加のもと、おおむね2か月毎に開催しています。会議では事業所の活動状況や利用者の状況、さまざまな種類の行事予定や実績などについて報告し、ホーム運営の課題や、より深い地域との交流の仕方などについて話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは、日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には、外部評価時に運営推進委員会議議事録を届けている。同法人内に地域包括支援センターを併設しており、情報交換が出来る体制になっている。	管理者は、市の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。また同一法人が地域包括支援センターを運営しており、市とはより緊密な情報交換ができる体制になっています。市の地域密着型事業者連絡会に参加し、交流活動をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>2階が居住スペースになっており、1階玄関は防犯の為、施錠されているが、ご家族様は自由に入出りできる。現在、見守りを必要とするご入居者様はおられない。また、徘徊される方もおられず、散歩や買い物等の決まった時間にのみ解錠している。</p>	<p>身体拘束のないケアに取り組んでいます。以前施錠していた1階玄関扉は、前回の外部評価以降、家族の訪問や利用者の外出の多い日中の時間帯に、開錠する努力をしています。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員の研修参加を行うとともに、研修後は会議で報告を行うようにしている。また、併設施設職員の研修記録も回覧してもらい、職員全員が閲覧できるようにしている。日々の職務の中で、虐待に当たるような発言や行動が出ないように、職員同士が注意し合っている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要と思われるご入居者様がおられれば、併設している地域包括支援センターに相談できる体制をとっている。また、利用されている方に関しては、支払いや面会時に担当者と話し合う機会を設けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、内容をご理解頂けているか、またご不明な点はないか、その都度確認するよう心がけている。解約時は、その理由を明確にし、在宅や病院、他施設への転居がスムーズに行えるよう支援させて頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>両者が記入できる記入する要望書を設置し、定期的にサービスに対するアンケートを実施している。ご家族様の面会時に、施設に対する意見や要望を確認するよう心がけている。</p>	<p>家族が訪問する機会だけでなく、家族をイベント行事に招待したり、年に2回の家族会を実施したり、定期的に介護サービスに対する要望を聞くアンケート調査をするなどして、家族が意見表明できる機会を増やす努力をしていることで、家族との関係は良好となっています。また毎月、行事や日常生活状況の写真、職員紹介、家族への連絡事項などを載せた「グループホーム布市真寿庵便り」を発行し、家族に送付しています。介護計画も家族と話し合い、意見を入れて作成しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>            代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月開催している職員会議において、に対する意見や要望の抽出を行っている。また、半年に1回職員に対するヒヤリングを実施している。</p>	<p>職員は、定例のグループホーム会議や日常の業務を通じて、意見や提案をする機会があります。職員のアイデアを生かしたユニークな行事が数多く企画・実行されており、利用者を楽しませています。また職員にアンケートをとったり、年2回個人面談をしたりして話し合う機会を設けています。職員には資格取得の支援制度があり、その他にも、誕生日や資格取得時の祝い金制度を設けています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>            代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>日々の職務の中や、半年に1回のヒヤリングにおいて、要望を確認し迅速に対応するよう心がけている。また、定時に職務を終了できるよう、業務の見直しを行っている。資格取得や誕生日日には祝金を支給し、職員の志気向上に努めている。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>            代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>参考書を購入し、貸し出しを行うとともに、年間研修計画に基づく、外部研修への参加を積極的に薦めている。また、資格取得へのアドバイスや参考書の提供を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東大阪市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加入し、定期的な参加により情報交換を行っている。また、施設見学に行かせて頂き、他施設の取り組みを聞き、自施設で活かせることは取り入れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に、計画作成担当者や相談員が課題や要望を把握し、アセスメントを行っている。また、入所と同時に居室担当者を決め、生活全般における心配事や要望に応えることが出来るよう、体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に相談員が、ご家族様の不安や、施設での生活に関する要望の抽出を行っている。また、相談員や計画作成担当者、居室担当者がご家族様の面会時に近況の報告を行える体制をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、ご入居者様の生活歴やADLを把握し、施設での生活における支援方法をご本人様やご家族様と話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、「疑似家族」として施設で一緒に生活していることを理解し、「寄り添い共に生きる」を目標に職務に就いている。出来ることは自らで行ってもらい、出来ないことのみを手伝うよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度は支払いで時に面会して頂き、それ以外でもご本人様の対応や、今後の方針に関しても、ご家族様に電話で意見を求めるようにしている。また、行事への参加も積極的に呼びかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣からのご入居者様に関しては、施設への出入りを自由に行ってもらい、居室で面会してもらっている。また、面会が減っている方に関しては、電話で会話してもらおう等工夫している。	併設のデイサービスに通う利用者の友人がホームを訪ねる支援をしたり、利用者と担当職員が個別に相談し、二人連れで昔馴染みの商店街に行ったり、お墓参りをしたり、友人を訪ねたりするなどの支援をして、利用者が大切に思う、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性9名の施設であるため、ご入居者様間のトラブルは多いが、職員が間に入って円満に生活できるよう心がけている。対人関係構築に時間がかかる方に関しては、最初に職員が関係を構築するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他府県や他施設へ転居された方との連絡は難しいが、併設の特別養護老人ホームへ入所された方は、ご本人様やご家族様と面会時にお話する時間をつくっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話から抽出したご本人様の思いや要望を記録に残し、把握しながら支援している。	当初のアセスメントやその後の暮らしのなかで、利用者から聞き取った希望や思いを「伝言ノート」に記録したり、センター方式の「私の姿と気持ちシート」に記録したりして、情報を全職員が共有できるように工夫し、その実現に向けて努力しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に、ご本人様やご家族様からお聞きした生活歴や、介護支援専門員からの情報を入所前に職員全員で把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅での生活状況を把握し、施設での出来ることは何か、不得意とすることが何かを職員全員で話し合い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人様やご家族様、計画作成担当者と居室担当者が、話し合った介護計画を会議の場で発表し、職員全員が把握したうえで実行、結果を記録に残している。</p>	<p>介護計画は3ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。各職員は「介護記録」で介護計画の支援内容を毎日モニタリングし、担当職員はモニタリング結果を月毎に「利用者ノート」へ記載するとともに、カンファレンスで報告しています。計画作成担当者は、3ヵ月毎に介護計画の見直しにつなげ、家族とも相談して決定しています。なお、今後はより分かりやすくするため「利用者ノート」によるモニタリングを「モニタリング表」に変更する予定です。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>前頁にも記載したが、全職員が実践したケアの結果や日々の状況を記録、居室担当者がそれをまとめ、計画作成担当者へ報告している。</p> <p>計画作成担当者は、それをもとに介護計画の継続や見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご家族様の要望抽出は少ないが、ご本人様の要望に関しては、ご家族様の意向も確認した上で実行している。</p> <p>買い物外出や、住んでいた地域の散策等も実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や公民館、学校等の催し物へ参加したり、ボランティアの協力を得て近隣へ外出する等の取り組みを行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの担当医との関係を継続される方には、ご家族様に受診介助を依頼し、医師への情報提供を行っている。また、服薬変更後の状況把握に努め、その情報も医師へ報告するよう努めている。	かかりつけ医となっている協力医療機関の医師より、診療を受けています。また、協力医療機関と連携し、夜間や緊急時対応についての体制も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームに看護師がおり、ご本人様の日々の些細な変化に関しても相談できる体制になっている。医師への相談や受診の必要性に関しての意見を得ることも可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携病院である枚岡病院の医師とは、定期的な受診時に情報提供と意見交換を行っており、入院になる前に治療が行えるよう努めている。入院になった場合は、病院やご家族様、後見人との連携を図り、状態が安定すれば退院するよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>施設での生活が困難となることが予想される方に関しては、ご家族様に相談し、環境を著しく変えないように、近隣の介護福祉施設や病院への申込みを勧めている。また、万が一そうなった場合には、先方の担当者への情報提供を行い、ご本人様にあったケアを受けることが出来るよう努める旨を説明している。</p>	<p>看取りについては、利用者の入居の際に家族に対して、状況に応じて法人全体で対応することを伝え、了承を得ています。今後、利用者が重度化していく場合、可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、かかりつけ医と連携を図り、状況の変化に合わせてその都度、利用者や医師、家族と話し合いをしながら対応していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>迅速な対応が出来るよう、全職員が閲覧できる場所へマニュアルを設置している。また、いつでも対応できるように全職員が周知徹底している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設している特別養護老人ホームと合同で避難訓練ら防災訓練を行っている。また、防災時の緊急連絡体制の確認や、運営推進委員会議において地域の方への協力を呼びかけている。</p>	<p>今年8月、併設している特別養護老人ホームと合同で消防署立会いのもと、災害避難訓練を行っています。また近々地域の消防団の協力を得て、地域住民の協力体制のもと、自主避難訓練を実施する予定です。災害時の食料と水の備蓄についても実施しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の意思を尊重し、共感する声かけや会話に努めている。「人生における先輩である」ことを全職員が理解し、対応するよう周知徹底している。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮して、やさしい雰囲気です。利用者は、楽しい会話と笑顔で暮らしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員全員が、傾聴することを心がけ、基本的にご本人様やご家族様に決定を委ねている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中にも自由を増やすよう心がけ、ご本人様のペースで生活して頂くよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着替えや入浴、クラブ活動等で女性本来の「綺麗でありたい」という希望が叶うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、下膳や食器洗い等、出来ることは一緒に行い、食事中の会話等の雰囲気づくりに努めている。	現在併設の特養に食材提供している業者から、調理済みの食材を取り寄せています。利用者は食事準備、盛り付け、後片付けなどの得意な分野で役割をもって参加しています。職員は、利用者と同じものを食べながら、会話のある楽しい雰囲気づくりに努め、食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをしています。園芸クラブの菜園で収穫した野菜が食卓にのることもあります。月1回好きなおやつを作るおやつクラブや、2～3ヵ月毎の外食会も楽しんでいます。年内には食材業者を変更し、職員も増員して、利用者も調理等に携わり、食事を楽しめるように取り組んでいく予定です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を確認、自ら水分摂取の訴えを出来ない方に関しては、職員が提供し、摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアの声かけや誘導、義歯洗浄等の介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、おむつの使用者はいない。パット使用者に関しても、声かけを行いトイレ誘導にて排泄支援を行っている。夜間においても、4名の方がおむつ未使用で、ポータブルトイレでの排泄支援を行っている。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、声かけや誘導による支援を行っています。現在大半の利用者が、自立に近い状況を維持できています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	現状、入所時より便秘の予防を服薬にて行っておられる方が3名おられ、運動や水分摂取量の確認で対応している。便通の把握が出来ない方に関しては、職員が確認し把握するよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおよその入浴曜日は決まっていますが、希望に合わせて入浴してもらうよう努めている。午前中の中の入浴になってしまっているが、入浴時の介助方法や会話等、安心して入浴してもらえるよう努めている。	利用者は平均して週3回入浴しており、ほぼ毎日の入浴を楽しんでいる方もいます。週2日の入浴剤の日があり、菖蒲湯やゆず湯などの季節の行事風呂も楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を維持するため、昼夜逆転にならぬよう注意しながら支援を行っている。また、今の季節では室温に注意を払い、ゆっくり眠ることが出来る環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が閲覧できるよう、処方箋をケースファイルに入れ、服薬の変更がある場合は、伝言や会議で把握するようにしている。また、処方の変更があった場合は、その後の変化を記録に残し、医師に情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各居室担当者が、ご本人様の生活歴に合わせた楽しみを見出すよう努めている。また、ご家族様の協力を得ながら意向に沿うよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季に伴い、毎日の散歩へ出かけることが出来ていないが、ご家族様との外出や外食、ボランティアの協力を得ての外出等は支援出来ている。現在は、ご本人様の希望を聞きながら、居室担当者との外出を行っている。	職員は外出支援に力を注ぎ、利用者は日常的に近隣のお寺やガーデニングのきれいな住宅街、ペットショップ、スーパー等に出かけています。家族や外出ボランティアの協力を得て、少し遠出の遠足にも出かけ、その日は外食も楽しんでいます。また、担当職員と相談して利用者が行きたい所へ二人連れで外出する等、個別外出も実績をつんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、ご本人様に金銭を所持して頂いていないが、買い物の際は立て替えを行い、購入したものがいくらであるかを知ってもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	面会が多いため、ご本人様が手紙を書かれることは少ないが、電話に関しては希望時に同行し支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては、その方が使い慣れた物を持参して頂き、在宅に近い環境づくりを、共同スペースに関しても、施設といった雰囲気ではなく、くつろぎやすい環境作りに努めている。	同一法人の特養に隣接しているホームは、華やかな洋風のたたずまいで、2階部分が居住空間になっています。2階入口から左右に明るい居室が並ぶ広い廊下の先に、壁一面の半円形の大きな出窓や、明るく開放的なリビング兼食堂があり、利用者たちが職員のキーボードに合わせて歌を歌っている風景がありました。壁には季節にちなんだ金魚やせみ、ぶどうの折り紙作品や行事写真が貼られ、文庫本や雑誌、新聞もある共有空間は親しみと家庭的な雰囲気があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食堂自席等でくつろいで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時や面会時に在宅で使用していた家電や家具、小物等を持参して頂くようにし、居室をくつろぎやすい雰囲気になるよう支援している。	居室には整理たんすや飾り台、籐のソファ、手作り作品、遺影、家族の写真、書籍、テレビ等が置かれ、ハンガーラックには、外出用の服や帽子がかかっています。家族が持参した花々や家具、家族の写真などを飾っている居室もあり、家族の思いが伝わってきます。利用者の趣味である俳句作品や、好きな歌手のCDとラジカセ、折り紙作品などに囲まれ、個性的で自由に過ごせる雰囲気のある居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、手すりやエレベーター、段差のないバリアフリーの床、車いす用トイレがあり、各場所にナースコールが設置されている。また、職員全員が広い視野で職務に就くよう努めている。		